

2019年7月17日

資料番号
No. 6

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

☆ 2019年4、5月の経済データを基に、長野県内の景況を把握したものです。

概 要

1. 全国景気 輸出や生産の弱さが続いているものの、緩やかに回復している
2. 長野県内景気 緩やかに回復しているが、一部には弱さもみられる
3. 4月の生産動向 生産は弱含んでいる
4. 5月の個人消費 大型小売店売上高は4カ月連続で前年を上回る
5. 5月の公共投資 公共工事保証請負額は3カ月連続で前年を下回る
6. 5月の住宅投資 新設住宅着工戸数は3カ月連続で前年を上回る
7. 5月の雇用情勢 有効求人倍率は2カ月連続で前月を上回る
8. 今後は、米中貿易摩擦の影響など海外の動向に伴う景気の下振れリスクに注視していく必要がある

照会先

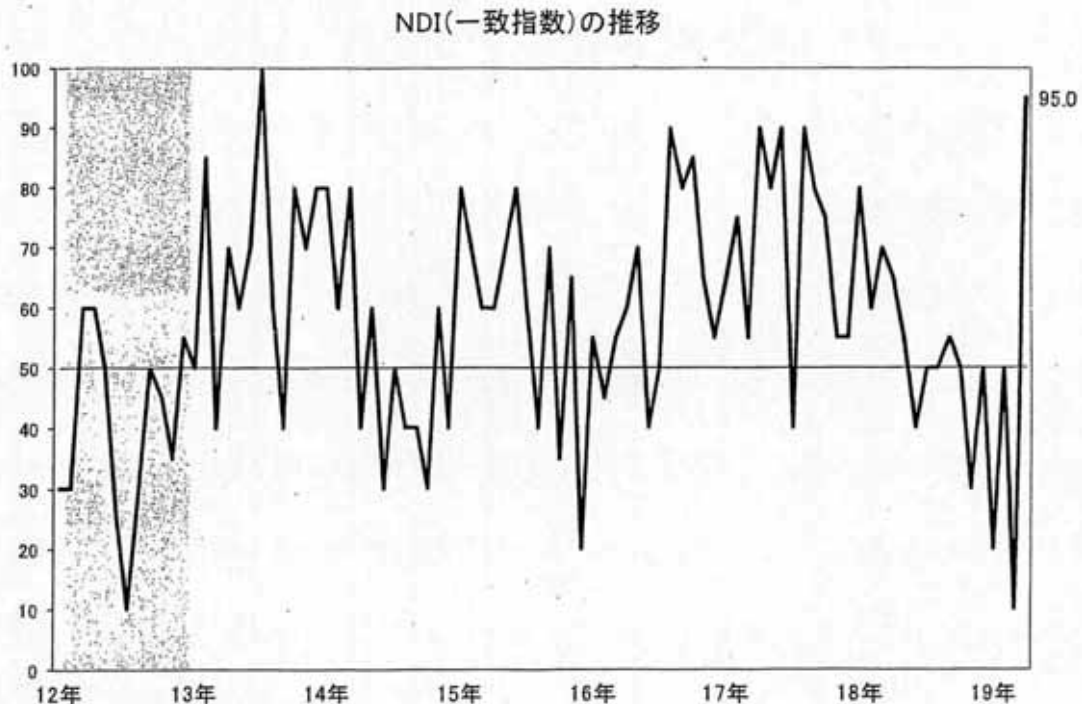
一般財団法人 長野経済研究所 調査部
担当 桑井、中村(亮)
電話 026-224-0501

景気動向指数

- ・4月のNCI(一致指数)は、101.8と前月と比較し+0.7ポイントと、2カ月ぶりに上昇した。3カ月後方移動平均は同+0.3ポイントと6カ月ぶりに上昇し、7カ月後方移動平均は同△0.7ポイントと、7カ月連続で低下した。
- ・NDI(一致指数)は95.0%となり、7カ月ぶりに景気判断の分かれ目となる50.0%を上回った。



(資料) 当研究所「長野県景気動向指数」
 注1. NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す
 注2. シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

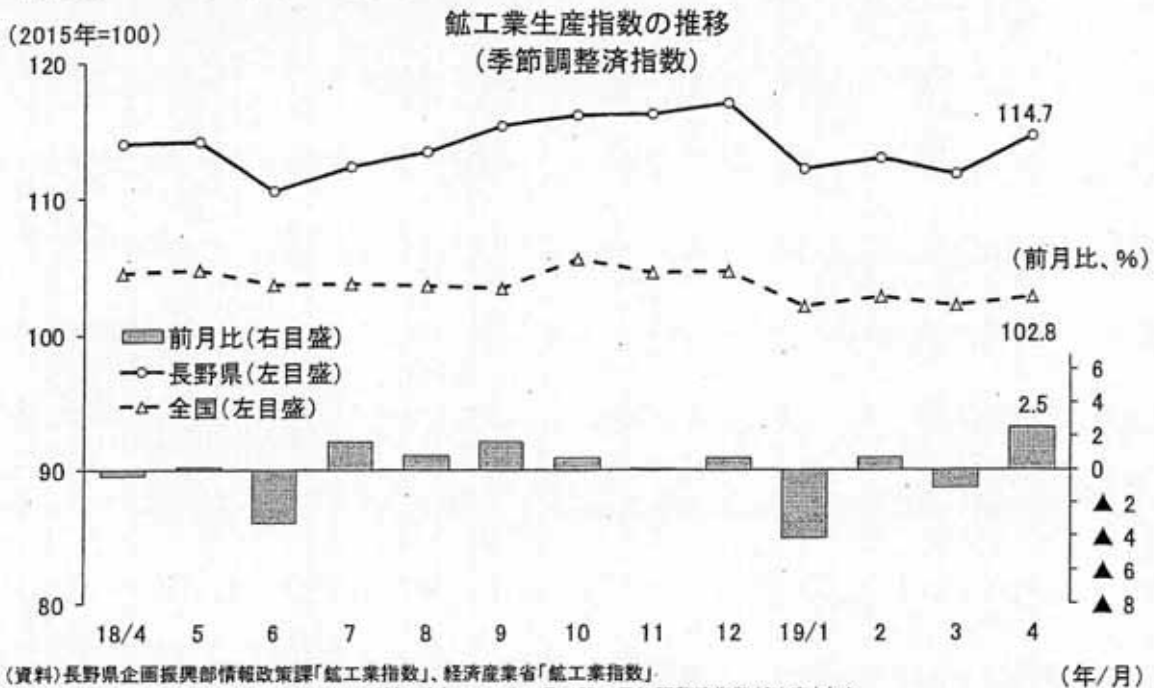
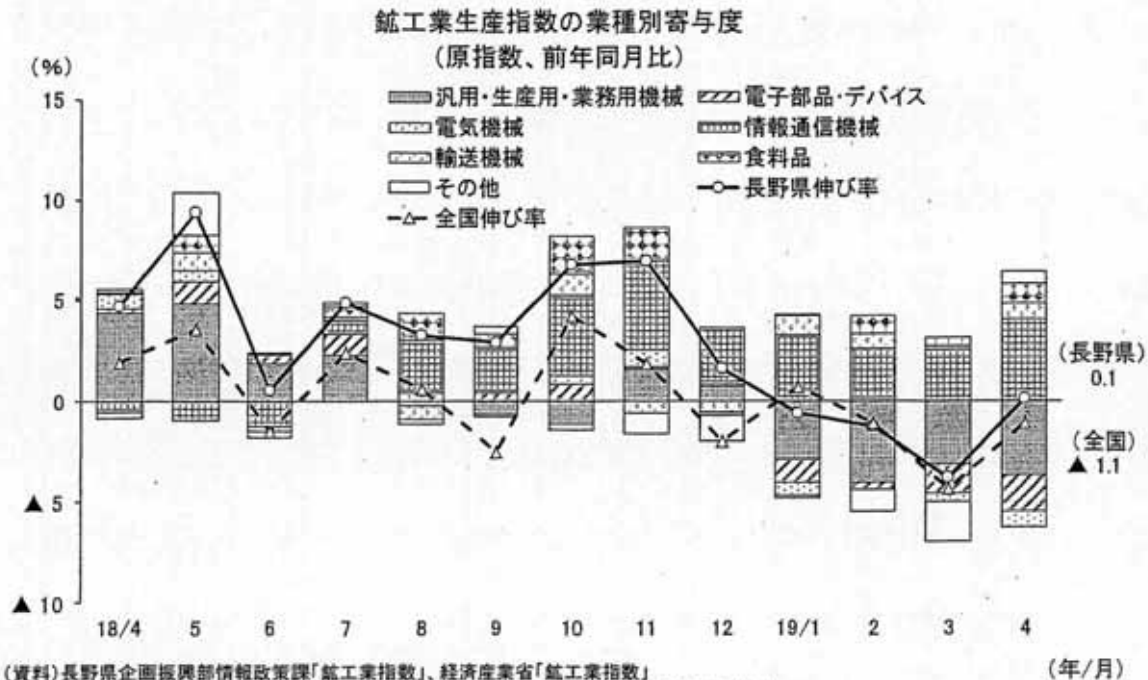


(資料) 当研究所「長野県景気動向指数」
 注1. NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す
 注2. シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

生産動向

生産は弱含んでいる

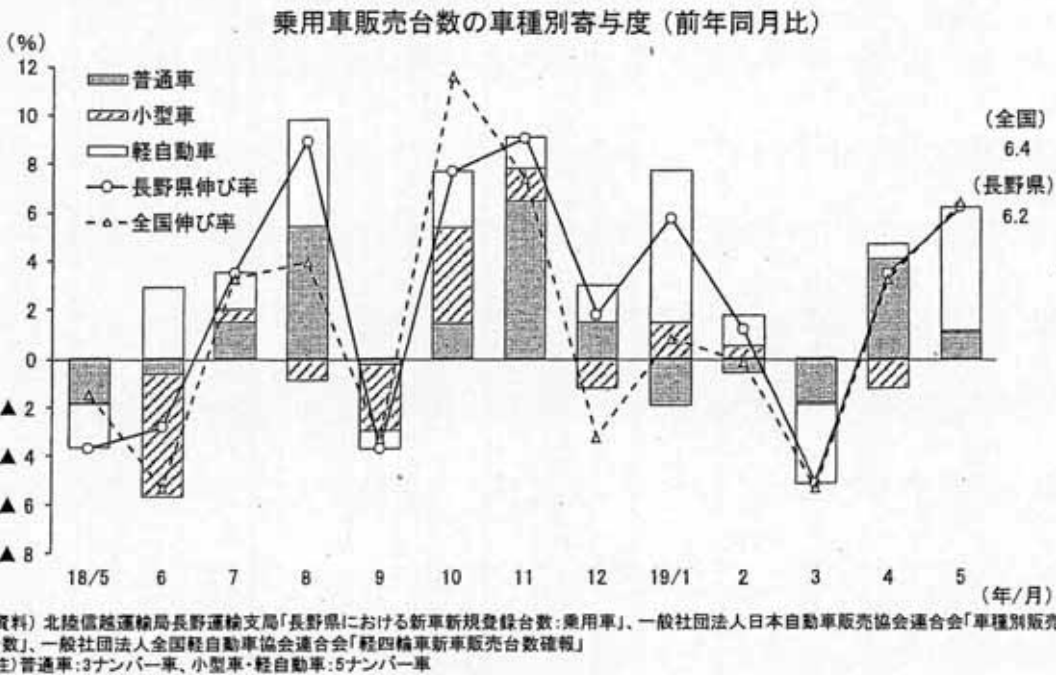
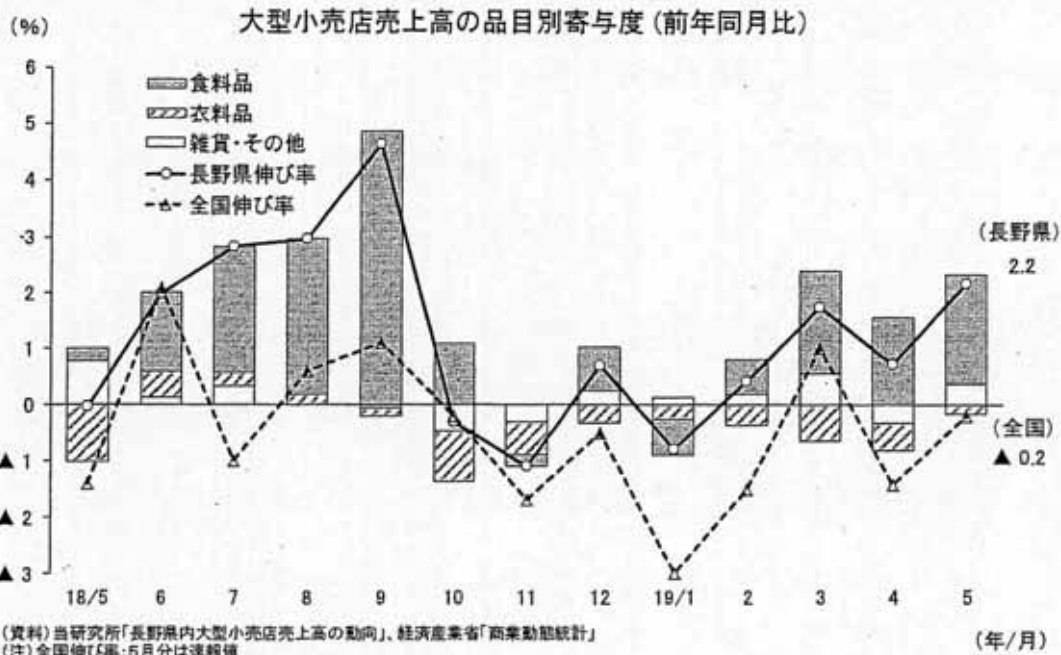
- ・4月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比+0.1%、季節調整済指数は前月比+2.5%となった。
- ・原指数は4カ月ぶりに前年を上回り、季節調整済指数は2カ月ぶりに前月を上回った。内・外需ともに弱い動きが続いており、生産は弱含んでいる。
- ・主要業種別にみると、民生用電子機器等の生産が順調な「情報通信機械」や、味そ・しょう油等が堅調な「食料品」などが前年を上回った。一方、産業用ロボット等の「汎用・生産用・業務用機械」や、電子部品等の「電子部品・デバイス」は前年を下回った。



個人消費

大型小売店売上高は4カ月連続で前年を上回る

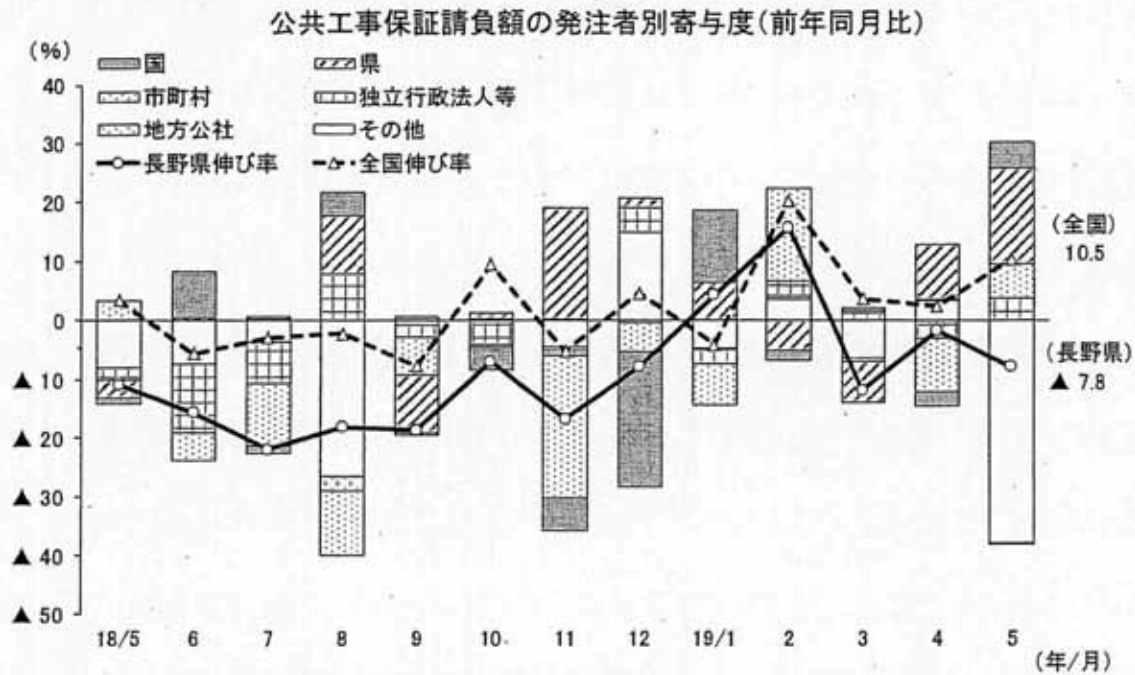
- ・5月の大型小売店売上高は、前年同月比+2.2%（売場面積調整前）となり、4カ月連続で前年を上回った。食料品は、大型連休中の客数増加が売り上げに寄与したほか、生鮮食品が堅調だったことから、同+2.3%となった。衣料品は、上旬の気温低下などから夏物衣料の出足が鈍く、同△2.4%だった。雑貨・その他は、化粧品などが好調だったことから同+3.8%となった。
- ・5月の乗用車販売は、前年同月比+6.2%となり、2カ月連続で前年を上回った。モデルチェンジした車種が好調だった軽自動車（同+12.6%）、普通車（同+3.4%）は、いずれも2カ月連続で前年を上回った。小型車（同+0.2%）も2カ月ぶりに前年を上回った。



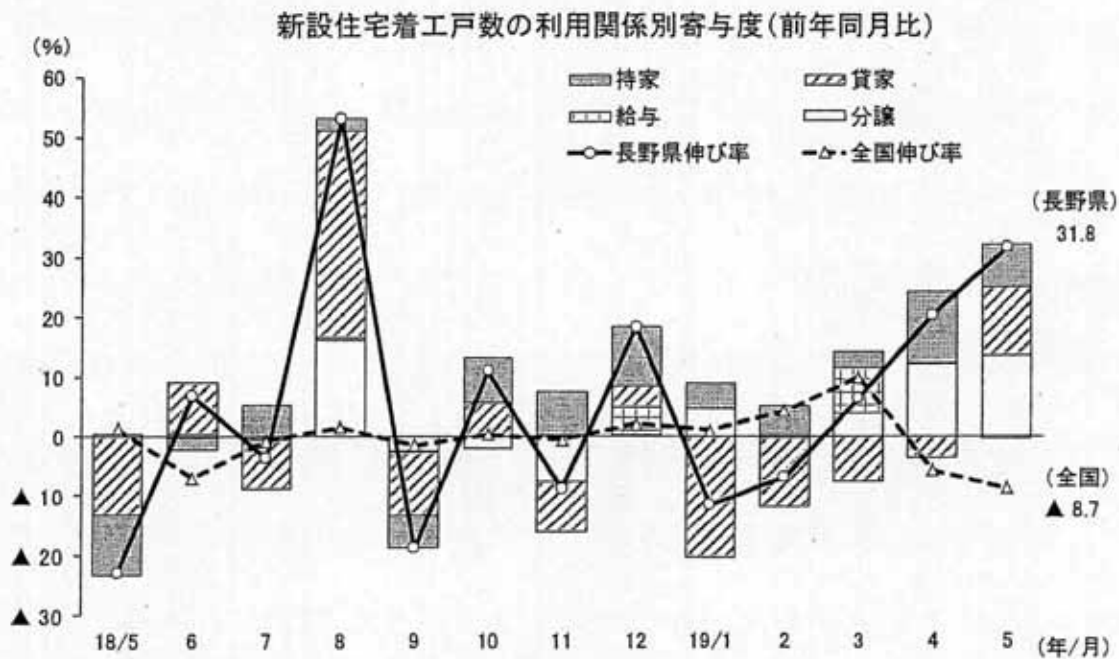
建設投資

新設住宅着工戸数は3カ月連続で前年を上回る

- ・5月の公共工事保証請負額は289億3,500万円で、前年同月比 $\Delta 7.8\%$ と3カ月連続で前年を下回った。発注者別にみると、国(同 $+23.4\%$)、県(同 $+118.8\%$)、市町村(同 $+38.9\%$)、独立行政法人等(同 $+280.0\%$)が増加したものの、その他(同 $\Delta 73.9\%$)が減少した。
- ・5月の新設住宅着工戸数は1,190戸で、前年同月比 31.8% と3カ月連続で前年を上回った。利用関係別にみると、持家(同 $+11.5\%$)、貸家(同 $+45.0\%$)、分譲(同 $+118.4\%$)が増加した。



(資料) 東日本建設業保証株式会社長野支店「保証取扱高」、東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

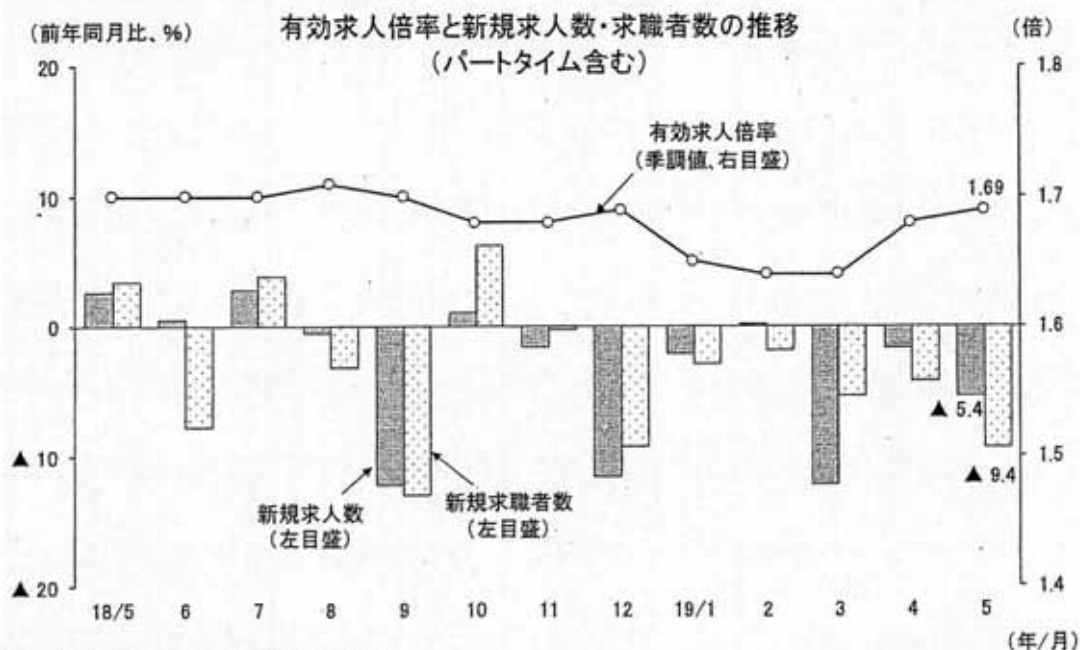


(資料) 長野県建設部建築住宅課「着工新設住宅戸数」、国土交通省「建築着工統計調査」
(注) 給与: 社宅、公務員住宅など

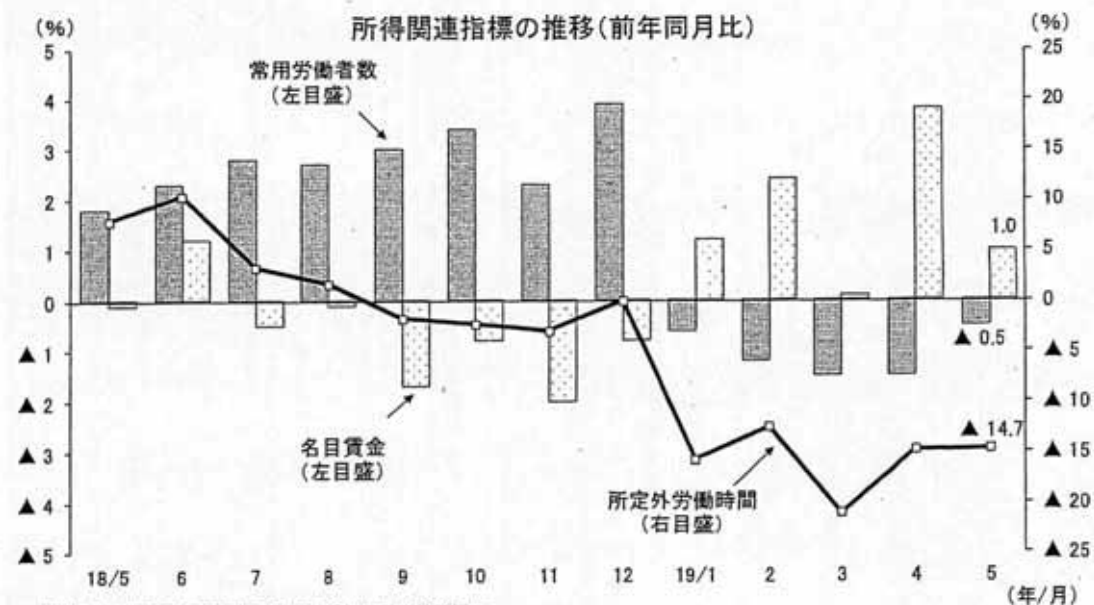
雇 用

有効求人倍率は2カ月連続で前月を上回る

- ・5月の有効求人倍率は前月比+0.01ポイントの1.69倍となり、2カ月連続で前月を上回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△5.4%となり、3カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同+0.9%、パートは同△4.0%となった。産業別では、情報通信業(同+13.8%)、医療・福祉(同+7.4%)、建設業(同+4.1)などは前年を上回ったものの、不動産・物品賃貸業(同△23.0%)、サービス業(他に分類されないもの)(同△21.7%)、金融業・保険業(同△19.4%)などは前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は前年同月比△9.4%となり、7カ月連続で前年を下回った。
- ・常用労働者数は前年同月比△0.5%、所定外労働時間は同△14.7%で、いずれも5カ月連続で前年を下回った。一方、名目賃金は同+1.0%と5カ月連続で前年を上回った。



(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」



(資料)長野県企画振興部情報政策課「毎月勤労統計調査」

- (注) 1. いずれも従業員規模30人以上、指数比較による対前年同月増減率
2. 名目賃金はきまって支給する給与

県内地域別・都道府県別有効求人倍率

有効求人倍率が41カ月連続で全国を上回る

- ・5月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比+0.16ポイントの1.64倍、東信が同△0.22ポイントの1.47倍、南信が同△0.08ポイントの1.46倍、中信は前年同月と同水準の1.50倍となり、東信は6カ月連続で、南信は5カ月連続で前年を下回った。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、木曾福島が2.09倍と最も高く、次いで長野が1.97倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は41カ月連続で全国を上回り、全国順位は前月から1つ上げ14位だった。

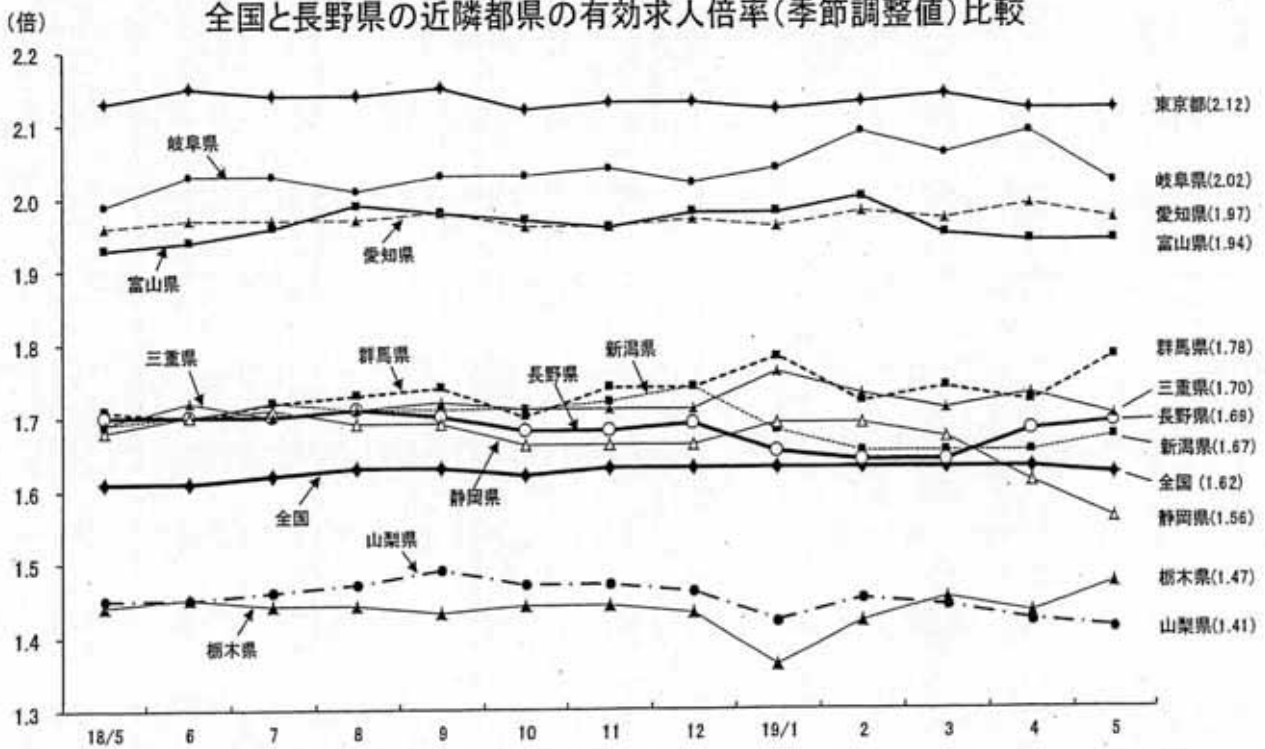
長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(19年5月)

地域	北 信(1.64) (前年同月比0.16)				東 信(1.47) (前年同月比▲0.22)		中 信(1.50) (前年同月比0.00)			南 信(1.46) (前年同月比▲0.08)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曾福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.97	1.35	1.28	1.39	1.38	1.56	1.50	2.09	1.24	1.31	1.53	1.53
前年同月比 (ポイント)	0.41	▲ 0.03	▲ 0.02	▲ 0.18	▲ 0.21	▲ 0.24	▲ 0.01	0.70	▲ 0.20	▲ 0.20	0.07	▲ 0.11
うち常用	1.68	1.29	1.27	1.29	1.17	1.49	1.31	2.01	1.14	1.23	1.39	1.50
前年同月比 (ポイント)	0.37	▲ 0.03	▲ 0.01	▲ 0.17	0.00	▲ 0.24	▲ 0.03	0.53	▲ 0.20	▲ 0.18	0.11	▲ 0.03

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」

(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値

全国と長野県の近隣都県の有効求人倍率(季節調整値)比較



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計(都道府県別有効求人倍率の推移)」

(注)1. 新規学卒を除きパートタイムを含む

2. 長野県の近隣都県及び、経済規模、産業構造が類似している県